

肉用牛生産の実態解明と経営改善

福島県畜産試験場 草地飼料部・平成10年度試験成績概要

1 部門名 畜産－肉用牛－畜産経営

分類コード07-02-49000000

2 要 旨

阿武隈山間地域の4町村(岩代町・東和町・都路村・葛尾村)における肉用牛繁殖農家全戸(918戸)を対象にアンケート調査を実施し、当地域の農業経営の実態と将来の意向を把握した。

(1) 肉用牛生産の実態

調査対象地域は、中山間地域の気象条件を活かした畜産、葉たばこ、野菜を主軸とした複合経営が営まれていた。肉用牛については約3分の1の農家で飼養されており、地域農業の中心に位置づけられている部門であることがうかがわれた。肉用牛の平均飼養頭数は約3頭であるが、現在5頭前後飼養している農家では肉用牛部門を拡大しようとする意向が強かった。

放牧については、20～30%の繁殖農家で行われており、その目的は省力化と繁殖成績の向上であった。遊休桑園を利用して飼養基盤の拡大を行っている例も多く、ロールベールラップサイレージが公共牧場から販売された場合、購入を希望するという農家も30戸以上あった。

(2) 経営改善に向けての検討

限られた家族労働の中では、経営部門間の労働競合が生ずる。このため、肉用牛部門の拡大にあっては、預託放牧とロールベールラップサイレージの購入によって春～夏季における労働時間の集中を緩和し、所得向上が図れるとの試算が得られた。

また、繁殖牛を受け入れる公共牧場側でも省力的人工授精技術等を取り入れて、生産子牛の市場評価を高める取り組みがなされることで運営がより活性化するとの示唆が得られた。